

2008年3月期 中間決算説明会 データブック

シダックス株式会社
2007年12月4日

平成20年3月期 中間決算トピックス

① 連結の範囲

[短信 25～26ページ記載]

□ 4月2日 米国パティナレストラングループにおける新規店舗開店に伴うLLC子会社の設立

■ この結果、新たに1社が連結の対象となり、連結子会社は32社、持分法適用関連会社は1社となりました。

新規連結子会社 Patina Events LLC (店舗名:Tanglewood)

② 会計処理の変更など

[短信 27、30～34ページ記載]

■ 当社が前年度において取得いたしました大新東(株)から受入れた資産・負債への取得原価の配分については、当中間期において追加的に入手した情報等に基づき、評価額の見直しを行った結果、発生したのれんを179億円に修正しており、20年間の均等償却を実施しております。
なお、みなし取得日が前会計年度末であるため、企業結合年度における損益影響額はありません。

■ 従来法人税法に基づく減価償却の方法により償却を行っていた有形固定資産については、法人税法の改正に伴い当中間期より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。また、平成19年3月31日以前に取得した同資産について、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した会計年度の翌年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。
なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

③ セグメントの事業内容

[短信 47～50ページ記載]

■ 前年度より新たに加わった「スペシャリティーレストラン事業」のパティナレストラングループ及び「トータルアウトソーシング事業」が、当中間期において大きく寄与しました。

④ 当期の業績要約

[短信 3～4、6ページ記載]

■ マーケティング手法による事業戦略の展開

- 1) エスロジックス事業においてオペレーションの効率化と同業他社との共同購買機構を活用した食材調達により食材原価の低減を図り、標準メニューに連動した統一食材の調達システムをより一層強化しました。
- 2) レストランカラオケ事業では、88店舗にてカルチャークラブの開講、三世代ファミリーのご利用しやすい店舗づくり、スペシャルルームとセレブスタイルメニューの充実、ケータイ会員や新カード会員の方への会員限定特典の実施、その他各種イベントの実施等、多様化したニーズに対応した様々なサービスを行いました。
- 3) スペシャリティーレストラン事業では、米国内で大型イベントのケータリング受注を拡大させると共に、国内レストランにおいてもスイーツ業態との連携を強化し、ブランド力向上と集客力の向上を図りました。また、トータルアウトソーシング事業では、一括アウトソーシングやPFI等の大型案件の捕捉に注力し、収益基盤の拡大を図りました。
- 4) 夏期に開催されたIAAF世界陸上2007大阪大会のナショナルパートナーであるシダックスグループでは、開催を記念し店舗・施設約1,500箇所において暑い夏にも負けない、夏バテ対応メニュー・レシピの提供を行いました。

■ 「食」を中心とした水平垂直型事業の「総合フードサービス企業」から社会サービス全般を含めた「総合サービス企業グループ」への発展

- 1) 前期末において取得した大新東(株)を中心として、アウトソーシング事業の拡大に努めました。
- 2) コントラクトフードサービス事業とアウトソーシング事業の一体化した提案型営業を行うことで、差別化された営業開発活動を行いました。
- 3) 官業民営化に対応すべく、一括アウトソーシングやPFI等の大型案件の受注に尽力しました。

■ 増資による財政面の強化

- 1) 財務内容の安定と有利子負債圧縮を目的に公募40,000株・第三者割当4,617株の増資を行いました。
- 2) 調達した資金37億円は全て借入金の返済に充当しました。

⑤ 特別損失の計上(個別)

[11/16 適時開示資料2ページ記載]

■ 当中間期において、シダックスフードサービス(株)株式の評価損を43億円、シダックスレストランマネジメント(株)に対する貸付債権等について貸倒引当金繰入額を11億円それぞれ特別損失として計上しております。

⑥ 連結損益計算書とセグメント情報の増減説明

[短信 18ページ記載]

■ 中間連結損益計算書

単位:百万円

	18年9月中間	19年9月中間	増減額	増減率
売上高	80,286	112,041	31,754	39.6%
営業利益	3,285	4,544	1,258	38.3%
経常利益	3,232	4,256	1,024	31.7%
中間純利益	218	832	613	281.1%

[短信 47～50ページ記載]

■ セグメント情報(一部加工)

単位:百万円

外部売上高	18年9月中間	19年9月中間	増減額	増減率
レストランカラオケ事業	29,369	30,648	1,278	4.4%
コンビニエンス中食事業	6,247	6,278	31	0.5%
スペシャリティーレストラン事業	1,162	12,314	11,152	959.4%
トータルアウトソーシング事業	—	17,898	17,898	—
その他事業	658	1,323	664	100.9%

内部売上高	18年9月中間	19年9月中間	増減額	増減率
エスロジックス事業	24,385	26,890	2,505	10.3%

外部売上高	18年9月中間	19年9月中間	増減額	増減率	
給食事業	エスロジックス事業	2,930	3,327	397	13.6%
	コントラクトフード事業	19,878	20,026	147	0.7%
	メディカルフード事業	20,039	20,223	184	0.9%
		42,848	43,577	729	1.7%

営業利益	18年9月中間	19年9月中間	増減額	増減率
エスロジックス事業	1,799	2,245	445	24.8%
コントラクトフード事業	915	1,116	201	22.0%
メディカルフード事業	△ 355	△ 56	298	84.0%
レストランカラオケ事業	3,313	2,680	△ 633	△ 19.1%
コンビニエンス中食事業	△ 66	△ 37	29	43.7%
スペシャリティーレストラン事業	△ 85	△ 282	△ 197	△ 232.8%
トータルアウトソーシング事業	—	1,364	1,364	—
その他事業	△ 222	△ 301	△ 79	△ 35.6%
消去又は全社≒HQコスト	△ 2,014	△ 2,183	△ 168	△ 8.4%
営業利益 計	3,285	4,544	1,258	38.3%

□ 連結売上高は1,120億円となり前中間期に比べて317億円の増収となりました。

前期末において取得した大新東(株)におけるトータルアウトソーシング事業が順調に推移したこと及び前期において取得した米国におけるスペシャリティーレストラン事業の業績が順調に推移したことにより、売上高がそれぞれ178億円及び123億円となりました。

レストランカラオケ事業においても既存店前年比104.9%と前期水準を維持し、全セグメントにおいて増収となりました。

エスロジックス事業の内部売上高の増加は、レストランカラオケ事業向け酒類の供給体制を「一元物流システム」に編入し、食材調達の効率化を図ったこと及び各セグメントへのサポート体制機能の強化によるものであります。

□ 営業利益は45億円となり前中間期に比べて12億円、経常利益は42億円となり前中間期に比べて10億円それぞれ増益となりました。

給食事業は、コントラクト・メディカル両フードサービス事業において他社と差別化した「グループ総合力による提案型営業」を強化すると共に、エスロジックス事業との連携を強化し安心・安全な食材を低コストで供給することで収益率の改善を図った結果、上記の通り3事業合算で比較すると営業利益は9億円の増加となりました。

また、当中間期よりトータルアウトソーシング事業の損益が寄与したことなどにより、営業利益は13億円増加となりました。

□ 中間純利益は8億円となり、前期に比べて6億円の増益となりました。

当中間期において特別損失を6億円(減損損失5億円等)計上いたしました。なお、前中間期の特別損失は23億円(減損損失22億円等)であります。

⑦ 連結貸借対照表の増減説明

[短信 16～17ページ記載]

■ 中間連結貸借対照表

	19年3月期	19年9月中間	増減額
現金及び預金	16,760	13,672	△ 3,087
売上債権	14,065	14,565	500
その他流動資産	8,362	7,836	△ 526
有形固定資産	36,504	34,227	△ 2,277
保証金等	11,550	11,572	21
のれん	20,195	20,051	△ 143
その他固定資産・投資等	18,581	17,845	△ 736
資産計	126,020	119,772	△ 6,248

単位:百万円

	19年3月期	19年9月中間	増減額
仕入債務	10,672	9,597	△ 1,074
借入金・社債	59,496	52,650	△ 6,846
その他負債	23,513	21,159	△ 2,353
純資産	32,337	36,363	4,025
自己資本比率	24.1%	28.8%	4.7%

□ 連結総資産は1,197億円となり前期末に比べて62億円の減少となりました。また、自己資本比率は28.8%に上昇しました。財務内容の安定と金利リスク縮小を目的に有利子負債の返済に努め、資産・負債を圧縮したことが主因です。

□ 資産項目別にみると、流動資産は360億円と前期末対比31億円減少、固定資産は836億円と前期末対比31億円の減少となりました。流動資産減少の主因は、有利子負債の返済を優先し現預金が30億円減少したことによるものであり、固定資産減少の主因は有形固定資産の減損損失及び減価償却等により、22億円減少によるものです。

□ 負債合計は834億円となり、前期末に比べて102億円の大幅な減少となりました。財務体質の強化のため、有利子負債を68億円圧縮したこと及び未払法人税等が18億円減少したことが主因です。

□ 純資産合計は363億円となり、前期末に比べて40億円増加となりました。当中間期は、公募及び第三者割当による新株発行増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ18億円増加したことを主因に、自己資本比率は28.8%となり、前期末より4.7%上昇しました。当期末に向けて、経営資源の更なる効率配分の促進を計画し、かつ収益性を高める方針であります。

⑧ 連結キャッシュ・フロー計算書の増減説明及び財政状態の説明

[短信 6～7ページ及び22～24ページ記載]

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	18年9月期	19年9月期	増減額
営業活動キャッシュ・フロー	4,567	1,891	△ 2,675
投資活動キャッシュ・フロー	△ 8,600	△ 831	7,768
財務活動キャッシュ・フロー	191	△ 3,970	△ 4,162
現金・同等物	15,362	13,191	△ 2,170

□ 営業CFは18億円となり前中間期に比べて26億円減少となりました。

これは主に、業績が順調に進捗していることにより税金等調整前中間純利益が27億円増加したものの、非資金損益項目である減損損失が16億円減少、仕入債務が16億円減少及び法人税等の支払額が19億円増加したことなどによるものであります。

□ 投資CFの純支出は8億円となり前中間期に比べて77億円減少となりました。

これは主に、前中間期において子会社株式の取得による支出が68億円及び営業譲り受けによる支出が5億円発生したものの、当中間期においてはレストランカラオケ店舗のリニューアル工事等に伴う支出が主であったことによるものであります。

□ 財務CFは前中間期に比べて41億円減少となりました。

これは主に、公募及び第三者割当による新株発行増資により資金調達を行った一方、借入金及び社債の返済に資金を充当したためであります。

[短信 7ページ記載]

■ キャッシュ・フロー指標の推移

	18年9月中間	19年3月期末	19年9月中間
自己資本比率(%)	31.0	24.1	28.8
時価ベースの自己資本比率(%)	47.2	30.8	26.0
債務償還年数(年)	3.7	5.3	13.9
インテレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	14.9	18.0	3.3

■ 有利子負債(リース債務含む)残高の推移

(単位:百万円)

	19年3月期	19年9月期	増減額
借入金・社債	59,496	52,650	△ 6,846
未経過リース料期末残高相当額	16,441	14,595	△ 1,845
合計	75,938	67,246	△ 8,691

□ 有利子負債等の残高は672億円となり前期末に比べて87億円減少となりました。

当期は財務体質の強化のため、有利子負債を圧縮したことにより残高が減少しております。

⑨ 平成20年3月期の通期連結業績予想

[短信 1及び4～6ページ記載]

単位:百万円

	19年3月期	20年3月期	増減額
売上高	175,150	225,000	49,850
営業利益	7,908	10,000	2,092
経常利益	7,939	9,700	1,761
当期純利益	1,527	3,050	1,523

□通期業績予想は、米国サブプライムローン問題を契機とした市場の先行き不透明感などもあり平成19年5月23日付見通しより変更しておりません。

セグメント別店舗数推移表

05年03月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末	
コントラクト	増加		0	58	13	5	3	5	14	98	9	3	5	6	3	5	129
	減少		0	12	9	6	6	10	10	53	7	5	13	3	7	76	164
	残	1,626	1,672	1,676	1,675	1,672	1,667	1,671	1,671	1,673	1,671	1,663	1,666	1,662	1,591	1,591	1,591
メディカル	増加		0	101	7	22	10	7	14	161	22	13	11	9	10	8	234
	減少		0	3	0	5	3	3	8	22	5	3	1	5	3	57	96
	残	724	822	829	846	853	857	863	863	880	890	900	904	911	862	862	862
レストランカラオケ	増加		0	2	0	3	5	3	1	14	2	2	1	2	1	0	22
	減少		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	残	281	283	283	286	291	294	295	295	297	299	300	302	303	303	303	303
コンビニエンス中食	残															312	

06年03月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末	
コントラクト	増加		0	89	7	8	11	8	7	130	11	4	5	5	8	5	168
	減少		0	10	5	6	11	8	7	47	9	3	5	2	9	67	126
	残	1,591	1,670	1,672	1,674	1,674	1,674	1,674	1,674	1,676	1,677	1,677	1,680	1,679	1,617	1,617	1,617
メディカル	増加		0	83	16	17	12	15	8	151	13	12	9	5	0	4	194
	減少		0	3	3	10	5	10	7	38	8	13	9	7	4	49	128
	残	862	942	955	962	969	974	975	975	980	979	979	977	973	928	928	928
レストランカラオケ	増加		0	3	1	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	5
	減少		0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	4	6
	残	303	306	307	307	306	306	306	306	306	306	306	306	306	302	302	302
コンビニエンス中食	残	312							321							328	

07年03月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
コントラクト	増加		79	4	16	10	6	13	128	9	1	5	7	5	10	165
	減少		3	4	4	7	4	6	28	6	7	7	39	13	68	168
	残	1,617	1,693	1,693	1,705	1,708	1,710	1,717	1,717	1,720	1,714	1,712	1,680	1,672	1,614	1,614
メディカル	増加		86	9	18	13	7	17	150	13	3	9	5	6	4	190
	減少		7	10	12	7	2	11	49	9	1	6	7	5	65	142
	残	928	1,007	1,006	1,012	1,018	1,023	1,029	1,029	1,033	1,035	1,038	1,036	1,037	976	976
レストランカラオケ	増加		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減少		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	残	302	302	302	302	302	302	302	302	303	303	303	302	302	302	302
コンビニエンス中食	残	328							343							347

08年03月期		期首	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間期末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
コントラクト	増加		50	6	4	4	3	5	72							
	減少		6	2	3	8	4	10	33							
	残	1,614	1,658	1,662	1,663	1,659	1,658	1,653	1,653							
メディカル	増加		63	3	6	9	6	2	89							
	減少		6	9	5	2	8	11	41							
	残	976	1,033	1,027	1,028	1,035	1,033	1,024	1,024							
レストランカラオケ	増加		0	0	0	0	0	0	0							
	減少		0	0	0	0	0	0	0							
	残	302	302	302	302	302	302	302	302							
コンビニエンス中食	残	347							352							

※05年3月期のSFC店舗数は、SFC北海道、SRM、SDCの店舗数含む。07年3月期のSFC店舗数はV A Sの店舗数を含む。

※V A S、S R Mの店舗は0701月度に移管

※メディカルの店舗数は、患者食以外の職員・外来食堂を含む

レストランカラオケ事業 月次売上・客数推移

05年3月期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
売上(千円)	4,955,481	5,243,091	4,381,813	5,183,878	5,773,957	4,844,375	30,382,595	4,788,684	4,473,242	7,130,475	5,938,189	3,990,591	5,375,255	62,079,031
客数(千人)	3,294	3,495	3,007	3,543	4,048	3,414	20,801	3,301	3,062	4,203	3,856	2,925	3,860	42,008

06年3月期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
売上(千円)	5,151,814	5,057,459	4,430,087	5,333,377	5,603,894	4,659,870	30,236,501	4,687,878	4,347,649	6,921,812	5,580,396	3,939,507	5,476,709	61,190,451
客数(千人)	3,335	3,364	2,956	3,496	3,808	3,197	20,156	3,091	2,873	4,039	3,681	2,869	3,755	40,464

07年3月期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
売上(千円)	4,958,028	4,800,411	4,283,626	5,059,274	5,618,381	4,708,497	29,428,216	4,454,454	4,391,879	7,338,688	6,201,528	4,370,888	5,704,035	61,889,688
組数(千組)	1,143	1,178	1,075	1,214	1,374	1,210	7,194	1,150	1,074	1,337	1,330	1,085	1,307	14,477

08年3月期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間末	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期末
売上(千円)	5,023,407	4,857,878	4,874,733	4,966,633	5,915,722	5,066,655	30,705,028							
組数(千組)	1,139	1,151	1,137	1,177	1,388	1,232	7,224							